

委員会視察報告

市民厚生委員会

7月11日から13日の3日間の日程で行政視察を行った。

滋賀県米原市では、「特定健康診査に関する取組み」について調査を行った。

本市においても取り組んでいる事業ではあるが、受診率に課題があり、高い受診率を達成している同市を調査した。同市では、市民に対する制度の周知、市民が受診しやすいような環境づくりに工夫されていた。

大阪府豊中市では、「安心生活創造事業」について調査を行った。本市においても取り組んでいる事業ではあるが、今後の課題も見えてきており、全国でも最先進地と評価が高い同市を調査した。同市は、同事業の実施以前からの地域福祉活動がしっかりと行われており、創意工夫の事業展開がなされていた。



豊中市

大阪府貝塚市では、「債権管理条例」について調査を行った。同市においては、市税にとどまらず公営住宅の使用料等の滞納も含め、債権管理条例を制定し、その管理・整理回収に対する責務を明確化するなど、債権回収に努められていた。

三陸・被災地

フロントライン研修

7月18日、19日にかけて公明党、衆政会、近未来21、翔春会、春風会合同で行政視察を行った。

岩手県陸前高田市では死者・行方不明者約1700人という県内最大の被害を受けた。同市は、がれきの量も約102万トンと県内最大級だ。被災したままの状態が残っている市庁舎前に降り立った。周りには積み上げられたがれきがいくつも山になったまま残り、そこに繁茂した雑草が遅々として進まないがれき処理の実態を表していた。東北3県のがれきの処理量は8月末現在で25%にとどまり、復興住宅の着工率はわずか1%台だ。

釜石市に向かうため三陸縦貫自動車道をひた走った。同自動車道は、宮城、岩手両県を結ぶ自動車専用道路。その中の「釜石山田道路」は震災6日前に

開通したばかりだった。市内の主要道路が津波被害で寸断される中、地元の小中学校生がこの道路を通り、一人の犠牲者も出さず避難することができた。避難・救援道路は「命の道路」として大きな役割を果たしていた。

釜石で店を再建した方に、今でも店と仮設住宅を往復している話を伺い、胸が詰まる思いだった。

東日本震災から1年半が経過したが、被災地の復興は大きく遅れていると感じた。復興加速のためにも、教訓を後世に伝えゆくためにも、記憶の風化に抗う意思と知恵の再構築が必要だと思う。



陸前高田市



編集後記

未来から現在を見た時大きな節目になっていると思います。世界では米国・韓国の大統領選挙、中国首脳の交代等、世界をリードする人物が決まります。日本も政治の方向を決定する総選挙が行われます。

オリンピックで日本は過去最多のメダルを獲得し大いに国を盛りあげてくれました。素晴らしいことです。この時期は、気温の変化が大きく体調をこわしやすくなります。また、寒くなるとインフルエンザが流行し始めます。予防のため「うがい」と「手洗い」を徹底しましょう。(まつとく)



議会報編集特別委員会

- |      |      |      |     |
|------|------|------|-----|
| 委員   | 委員   | 副委員長 | 委員長 |
| 高橋裕子 | 中原智昭 | 松尾徳晴 | 榊朋之 |